

# 大豆技術情報 第3号

令和2年7月  
なのはな農業協同組合  
富山農林振興センター

単収 200kg/10a 以上の確保、大粒比率向上に向けて

本年の大豆は苗立ちが概ね良好で、今のところ順調に生育していますが、6月下旬からの降雨の影響で畦間に水が停滞しているほ場も見られます。今後も排水対策を徹底するとともに、適切な雑草防除・病虫害防除により生育量を確保し、品質・収量が高い大豆の生産を目指しましょう。

## 1 排水対策

- まだ、2回目の培土を行っていないほ場は、土壌条件を確認してすみやかに実施しましょう。
- 培土作業でできた溝と額縁排水溝は必ず連結し、ほ場に停滞水がないようにしましょう。



## 2 雑草防除

○培土後に雑草が残っているほ場では、適切に除草剤を散布しましょう。

散布方法	雑草の種類	薬剤名	10a 当たり散布量	使用時期	使用回数
畦間・株間処理 (大豆にかけない)	1年生雑草	ロロックス(水和剤)	薬剤 100~200g 水 70~100ℓ	・本葉3葉期以降(雑草草丈15cm以下) 収穫30日前まで	1回
		バスタ液剤	薬液 300~500mℓ 水 100~150ℓ	・本葉5葉期以降雑草生育期 収穫28日前まで	3回以内

注：畦間・株間処理の場合、吊り下げノズルを用い、薬剤が大豆にかからないように十分注意して散布してください。

○帰化アサガオ類等の難防除雑草の早期発見に努め、ほ場周辺でみられたら開花・結実前に防除しましょう。

## 3 病虫害防除

○ほ場を巡回し、病虫害の発生状況に応じて、適切に防除を行いましょう。

	防除時期の目安	対象病虫害	薬剤名	10a当たり散布量
随時	発生初期 (7月下旬~8月上旬)	葉焼病	Zボルドー	500倍液 150~300ℓ
随時	葉が巻き始めたら (7月下旬~8月上旬)	ウコンノメイガ (ハマキムシ)	サイアノックス粉剤 (収穫 7日前まで)	4kg
			プレバソンフロアブル5 (収穫 7日前まで)	4000倍液 150~300ℓ
基本 (1回目)	莢が伸びきった頃 (8月上旬~中旬)	紫斑病	Zボルドー粉剤DL	3kg
			ベルコートフロアブル (収穫 7日前まで)	1000倍液 150~300ℓ
		カメムシが多い場合 紫斑病 カメムシ類	スミチオンベルコート粉剤DL (収穫21日前まで) ベルコートフロアブル (収穫 7日前まで) + スミチオン乳剤 (収穫21日前まで)	3kg 1000倍液 150~300ℓ
基本 (2回目)	1回目の10~14日後 (8月中旬~下旬)	紫斑病 カメムシ類	Zボルドートレボン粉剤DL (収穫14日前まで)	3~4kg
			アミスタートレボンSE (収穫14日前まで)	1000倍 100~400ℓ
随時	発生時 (8月中旬~9月上旬)	カメムシ類 フタスジヒメハムシ	ダントツH粉剤DL (収穫 7日前まで)	4kg
			ダントツフロアブル (収穫 7日前まで)	2500倍 150~300ℓ

注：防除の際は、農薬使用基準を必ず守るとともに、風向き等に注意し、周辺への飛散防止に努めましょう。

※トレボン剤の使用は、随時防除も含めて2回以内です。

## 4 畦間かん水

- ・開花期から9月上旬までの水不足は、莢数や百粒重の確保に大きく影響します。3日以上晴天が続いたら、土壌の乾き具合に応じて、畦間かん水を行いましょう。
- ・畦間かん水は短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら水口をしっかりと止め、速やかに排水してください。

カメムシ類の加害が著しいと莢数が少なくなり、青立ちが発生する場合があります。8月下旬~9月上旬頃に、カメムシ類のほ場への侵入が多い場合は、随時に防除を行いましょう。

イチモンジカメムシ

莢や子実を吸汁する

カメムシによる青立ち